

柿崎病院だより



発行日:平成 21 年 11 月 6 日
発行元:新潟県立柿崎病院
〒949-3216
上越市柿崎区柿崎 6412-1
TEL 025-536-3131
FAX 025-536-3136
ホームページ <http://www.kakizaki-hp.jp/>

柿崎病院の新しい取り組みについてご紹介します!



病院(本館)の耐震化計画

事務長 釜田富男

現在の県立柿崎病院の建物は、病棟等がある本館が昭和50年に、外来診療棟は平成元年に建築されています。本館は平成元年に外来診療棟建設工事に併せて内部改修工事を行いました。昭和56年に改正された建築基準法等により定められた「新耐震基準」は満たしていません。中越地震および中越沖地震と度重なる地震に対しても、病院建物には大きな被害はありませんでしたが、本館は耐震診断の結果も踏まえて、来年度に「耐震化工事」を計画しています。

新耐震基準では、よく経験する程度の地震に対して建物を壊れなくするというよりも、被害を軽く「人の安全を確保する」ことを重視していますが、災害時の病院では、負傷者の治療等応急活動の場となることが求められ、そのための病院機能の確保も必要です。

当院では、新耐震基準を満足し災害時にも応急的な診療ができるよう、来年度の夏頃からの工事着手を想定して、地震対策のため「本館の改修計画」を検討しています。

工法としては、建物の補強のため柱と柱の間に「鉄骨で筋交い」を設置したり、窓などの開口部をコンクリート等で埋める工事などを考えています。

こうした工事にあたっては、極力診療に支障がないように努めるとともに、患者さまやその家族、そして地域のみなさまのご理解とご協力を得られるよう努力したいと考えておりますのでよろしくお願い致します。



より良い診療情報の提供のために

診療放射線技師長 三上 豊

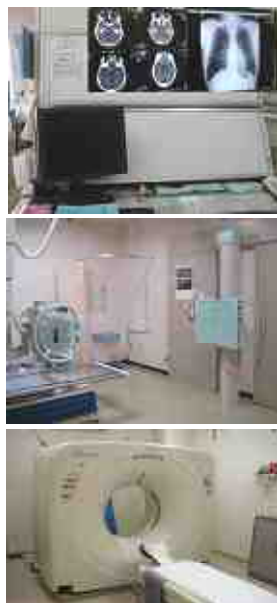


放射線科では診療放射線技師2名で診断の補助として必要な胸部写真などの単純X線撮影、CT検査、X線テレビ装置による撮影などを行っています。10月からPACS装置の導入に伴い、フィルム(写真)がなくなりパソコン上で簡単に画像観察をするようになりました。これからは重いフィルム袋の移動がなくなりますので、患者さんへの負担が軽くなります。これからもより良い診療情報の提供のために努力をしていきますのでよろしくお願い致します。

〔主な検査の説明〕

単純X線撮影は、X線が人体を透過して画像を作ります。フィルム上ではX線を透過しやすいもの(空気など)は黒く、逆に透過しにくい物(骨など)は白く描出されます。単純X線撮影では、病変の診断目的により、「立位」「座位」「臥位(寝た姿勢)」などの状態で撮影します。特に整形外科領域の骨の撮影では、いろいろな方向から撮影するため体の向きや姿勢を変えていただくことがあります。また、撮影を正確に行うために目的部位によって息を吸って止めたり、吐いて止めたりしていただき、画像がブレないようにしています。さらに当院ではCR装置(Computed Radiography)によりコンピュータでさまざまな画像処理が可能であり、画像診断能の高い画像情報を提供しています。

CTとはコンピューテッドトモグラフィーの略で、X線を用いて行う検査です。人間の体の臓器はそれぞれX線の吸収に差があります。この差をコンピュータで計算し輪切りの画像を作り、身体の内部構造を検査します。



退院調整看護師として

退院調整看護師 池田 美津子



10月より退院調整看護師として活動している池田美津子です。私は当院の看護師として病棟勤務、外来勤務、そして訪問看護師として患者さんの看護を経験する中で、在宅へ戻られる患者さんの継続看護の重要性を感じてきました。

退院調整看護師の役割は、入院後早期に退院調整の必要な患者さんや御家族を特定し、面談や相談などを通して信頼関係を構築すると共に、本人と家族関係の調整を行います。また、退院後の生活に必要なプログラムを作成し、福祉サービスの利用などの準備等を調整していきます。

当院は75歳以上の後期高齢者の方が多く入院されています。入院治療が必要な患者さんで治療が終了し自宅に退院される時に、色々な福祉サービスを必要とした状態で退院しなければならない患者さんが多くいらっしゃいます。入院前の状態が変化し退院されることは、本人はもちろん御家族の不安も大きいと思います。そこで、退院調整看護師が関わることにより入院時から早めに退院時の状態をイメージして、退院後の生活がスムーズに過ごせるよう退院準備を進めていくことが患者さんと御家族の安心につながると感じています。また、当院に転院される患者さんの情報や当院から他の病院や施設に転院される患者さんの相談や連携も行っています。

今後は、高齢で入退院を繰り返す患者さんが入院されても、「退院調整の池田がいるから安心だ」と言ってもらえるように、今までの経験を生かし精一杯退院支援をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

活動場所は1階の薬局の隣で病診連携室、医療相談室と案内が出ていますので、御気軽にご相談ください。院内では、水色の名札をつけて動いておりますので、入退院や御家庭での介護のご相談等ありましたら声をかけてください。お待ちしております。



職場を“楽しく元気”にするフィッシュ!

看護師 大島則子



私達看護師は、いつも笑顔で元気でいなければ良い看護ができません。それを維持するには...?と考えていたところ、教育トレーナー研修に参加する機会を頂きました。そこで着目したのが『フィッシュ!』です。フィッシュの由来は、『外国の傾きかけた魚市場の従業員が“世界一有名な魚市場にしよう”と考え、お客様から注文を受けた魚を持って運ばず、大きく投げ、まるで大道芸のようにやって魅せることで、職員自身が楽しみ、お客様を楽しませ、さらに運ぶ手間が省け生産性も上がり、有名な魚市場になった』という話からきています。つまりフィッシュとは、「遊び心を取り入れる事で仕事が楽しく効果的に出来、人を喜ばせることも出来る」ということです。

当院でもフィッシュを取り入れてみようと、新任職員を迎えるにあたり“職員一同、心から歓迎します”という気持ちを込めて、全職員の顔写真を貼り、フェルト・色紙で飾り付けをして職員マップを作成しました。作成した職員も楽しく取り組むことができ、新任職員からも喜んで見てもらえました。また院内研修会への多くの職員参加を願い、研修カードを作成しました。研修参加毎に1ポイント印を押し、年度末にポイント数上位の職員に景品を贈呈するというお楽しみを設けました。この効果があつてか、カードをもって自然と研修会に足を運ぶ職員が増えました。これぞフィッシュ効果!?

遊び心を取り入れ楽しく仕事ができれば、いつも笑顔で、効率・やる気・元気がアップし、良い看護の提供に繋がっていくのではないのでしょうか。このようなフィッシュを積極的に取り入れ、楽しく活気ある魅力的な職場づくりを構築していきたいと考えます。また、看護する私達も楽しく、そして患者様・地域の皆様にも貢献出来るよう努力していきたいと思っております。



柿崎病院は頸北の大きな安心

吉川診療所 医師 山本正洋



平成7年4月に吉川診療所に赴任して以来、柿崎病院にはとても大きな安心をいただけてきました。地元の旧頸北4ヶ町村とりわけ柿崎・大湯・吉川の住民にとって「何かあったらまずは柿崎病院へ」という考えが広く定着しています。上越市中心部の総合病院に比べ医師数や設備機器の面ではかないませんが、勤務されてきた諸先生と職員の皆様の献身的な仕事ぶりにより「まずは患者を診て下さる」ことで住民と頸北地区の一般診療所の医師達は安心することができています。また柿崎病院の諸先生は実に良く最新の医学知識等を学んで実践されており、私もその恩恵に与っています。

医師にとって一般診療所もそれなりに苦勞する所はありますが、当直勤務が無い部分だけでも大きな違いです。私も駆け出しの頃、月に10数日の当直勤務をした経験がありますが当直明けの勤務はやはり大変でした。常勤医師数の少ない柿崎病院の諸先生のご苦勞はいかばかりでしょうか。

私が子供だった頃に比べれば一般の方々の医療に対する意識もかなり変わり内科、外科の区分だけでなく各診療科の診療内容をふまえて受診されることが多くなりましたが、私が関わりをもっている患者様、とりわけ高齢の方は病気の種類や重症度に関係なく「何でも良いからここで診てくれ・・・」といった無茶な御希望をしばしば口にされます。そうした場合「ここでは(私)ではだめだから柿崎病院で診ていただきましょう」と比較的容易にそして安心して患者様を導けるのが「柿崎病院」なのです。とても市内中心部の大病院へは様々な事情(交通の便、大病院に対する不安感など)から簡単には行っていただけない患者様も多く、また初めからそうした大病院に紹介する必要があるとは思えない方もいらっしゃいます。

例え非常勤医による週何日かの診療であっても柿崎病院で皮膚科や眼科、耳鼻科などの診療を受けさせていただけることは頸北地区の住民にとってとても重要なことです。こうした診療科の個人の開業は経営が成り立ちそうに有りませんので、柿崎病院のこれらの診療科の開業は例え病院の経営上負担が重くても是非続けていただきたいと願うものです(公的なバックアップも必要かもしれません)。

頸北地区に内科と外科の入院設備が整っていることも重要です。そしてベッドの数もゆとりを持って確保されていることが望めます。入院した際の家族の負担は病院が遠くなればなるほど大変です。「入院するにしても柿崎病院より遠いところは無理」という患者様も少なくありません。また、ある程度の「社会的入院」が必要となる場合もあることでしょう。

本来、病院と在宅の間の橋渡しの施設と位置づけられて老人保健施設の制度がスタートしたのに、介護保険が始まると同時に社会的入院が健康保険の運用でも事実上禁止されるようになり、老人保健施設は殆ど特別養護老人ホームと同じ役割しか担えない様になってしまいました。従ってかつての社会的入院の状態にある方々の居場所がどんどんなくなってしまいました。高齢者数の急激な増加がありますのでやむを得ない部分もありますが社会的入院もある程度必要ではないかと思っております。柿崎病院も経営を考えて運営していると思っておりますが、社会的入院にもご理解をいただいているように感じています。

現院長の藤森先生のご着任以来理学療法部門の充実など一段と地域医療の拠点としての機能が充実されています。このことは地域住民にとってとても喜ぶべきことです。地域にとって掛け替えのない我が柿崎病院が、今後も長く私達に安心を与え続けて下さることが出来ますようお願いいたします。

保健指導を通して...

看護師(保健師) 橋爪彩子



当院で人間ドックを受けていただいている方を対象に、保健指導を実施しています。今年度新たに始めたことで、私自身も初めての経験で戸惑うことも多くありましたが、周りのスタッフの協力を得て、何とか実践しています。

実際にドックを受けた方全員とお話をさせていただいて、毎年当院で人間ドックを受けている方、当院に通院もしている方、柿崎病院に来たのも初めてという方、健康に関心が高い方、仕事が忙しく自分の体は特に気にしていないという方...いろいろな環境・生活スタイルの方がいて、それぞれの状況にあった指導を行うことは本当に難しいと痛感しています。保健指導の内容だけでなく、他に健康面で心配なことについての質問や食事についての質問を受けることもあり、自分の知識を深めるとともに管理栄養士と連携をとっていくことの必要性も感じました。

また、お話ししている中で人間ドックを受けた感想や要望など貴重なご意見を聞かせていただいています。これを生かして今後、より快適に当院の人間ドックを受けていただけるよう改善していきたいと考えています。保健指導は15~30分程度の短い時間ですが、生活習慣の見直しや自身の健康について考えるきっかけとなり、少しでもみなさんの生活習慣病の予防につながるよう取り組んで行きたいと思っております。



柿病ニュース

平成21年度第2回地域講演会を行いました

平成21年10月3日(土)柿崎地区公民館にて、「胃がんについて」と「新型インフルエンザの家庭でできる対策」について講演をさせていただきました。お忙しい中、たくさんの方にお集まりいただきました。今後も、定期的に地域講演会を開催する予定ですので、ぜひご参加下さい。



11月より眼科の水曜日午後の診察が新潟大学の水澤医師に変わりました

	月	火	水	木	金
午前診察	(受付)	(8:30~11:00) 9:30~ 寺松医師	(8:30~11:00) 9:00~ 労災病院		
午後診察	(受付)		(13:00~15:00) 14:00~ 水澤医師		(13:00~15:00) 14:00~ 労災病院

10月から医事課受付窓口の制服が変わりました

装いを新たに、ますます皆様に安心していただける、対応に努めます。ご不明な点等がありましたら、お気軽にお声をお掛け下さい。

